

## 模擬患者参加によるコミュニケーション演習から1年生が学んだこと

演習前に考えていた質問を次から次にすると、患者さんは会話をしているように感じないことがわかりました。そのため、患者さんの返答の内容から話を広げ、患者さんの思いが表出できるようにかかわっていきたいと考えています。



私は患者さんと会話をしている間、間が空かないように会話しようと考えていました。演習では、患者さんと会話をしている間、沈黙となったので焦りました。しかし、患者さんからは考えを整理する時間になったと言われ、患者さんにとって必要な沈黙もあると気づきました。今後は、患者さんの状態に合わせてコミュニケーションをしていきたいと考えています。



私は、視線を合わせてコミュニケーションをとることを意識し、コミュニケーション中の患者さんの姿勢が安楽になるようにクッションを使用しました。患者さんには、マスクをしていても笑顔が伝わり、話を聞いてくれる人だと感じてもらうことができました。

私は、初めての演習でとても緊張していました。実施後に患者さんから、私の緊張や焦りが患者さんに伝わり、不安感を与えてしまうと教わりました。今後は、落ち着いて行動することを大切にしたいと思います。



<担当教員より>

コミュニケーション演習の実施後に、模擬患者さん、観察している学生と一緒に振り返りを行いました。コミュニケーション中に患者さんがどのように感じたり考えたりしていたのかフィードバックをしていただくことで、学生は自分自身の気づいていなかった会話のスピードや声のトーン、患者さんとの距離の取り方などのコミュニケーションにおける傾向を知り、自身の強みと改善点を明確にしていました。また、他学生の演習や自身のコミュニケーションを通して相手に与える影響についても考えられていました。今後の臨地実習で、相手の立場を考えて今回の課題を活かせるように前向きに学習に取り組んでいます。